

ANIC info



Association for
Nakano
International
Communications

中野区国際交流協会

2016
November

世界に飛び出せ！若者たち ～中野・ウェリントン友好子ども交流 2016・ 第21回中野区・西城区友好親善少年軟式野球大会～

イベントレポート 夕涼み会
日本の夏祭りを堪能～松が丘片山町会盆踊り
夏休み子ども日本語クラス閉講式「やったね！の会」
「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
外国語が母語の親子のための高校進学説明会

お知らせ タイ料理講習会
インターナショナルウィーク
総合防災訓練
ホームページ更新～防災情報を追加しました～



Welcome
to
あにっく





世界に飛び出せ！中野の若者たち

今夏も、ANICは、ニュージーランド、中国へ、若者たちを派遣しました。
それぞれの地で、彼らがなにを目にし、なにを感じ、なにを考えたのか。寄せられた手記から抜粋します。

中野・ウェリントン友好子ども交流 2016

1984年、ニュージーランドのウェリントン市教育委員会から「市内の学校で日本語を学ぶ子どもたちに日本で学習する機会を与えたい」と依頼があり、翌年中野区教育委員会が受入れ、交流が始まりました。1993年からは区の委託を受け、ANICが実施しています。双方の子どもたちが交互に訪問し合い、ホームステイや学校への体験入学、お互いの文化や歴史の学習、地域での交流などを行うことで、言語（日本語・英語）を学習する機会を提供するとともに、国際的な視野をもった若者を育てることを目指しています。

今回は、区立4中、5中、7中、8中、北中野平、緑野中の6校から19名の生徒が参加しました。

■ホストファミリーと過ごす毎日

「今日はとても忙しい一日になりました。朝は7時頃からプールで泳ぎ、その後ホットドッグの朝食をとりました。午後は、ハリーの友達の家で卓球をし、とても楽しむことができました。夜にはハリケーンズ対チーフスの試合を見に行きました。ハリーのお父さんがハリケーンズのファンなので、ハリケーンズがトライを決めたときは、とても嬉しそうにしていました。試合終了後にグラウンドに降りて1人の選手のサインをもらうことができました。とても楽しい一日になったと思います。」

「ホストファミリーは、とても親切で特に困ったこともありませんでした。それにネイサンは日本語が上手でたくさん僕を助けてくれました。ネイサンがそばにいないと僕はジェスチャーと短い単語で自分の意思を伝えました。1番の経験は海外で生活することだと思いました。」

「家から学校までの30分ほど、毎日リアムと会話が途切れないよう頑張ってたぶん英語で質問をしながら歩いて登校し



それぞれのホストファミリーが集合

ました。30分の通学はとても有意義にそして長く感じました。」

「私がウェリントンで経験した内、一番大きかった事



見学先のMakoura College 生徒と

は、初めて一人で、家族以外の人と毎日過ごすということでしたが、ホストファミリーが優しく受け入れてくれたのでホームシックにはなりませんでした。」

■学校体験

～ Newlands College, Wellington College ～



Wellington College 授業の一コマ

「英語の特別授業はとても面白く分かりやすいです。その後の授業もだんだん慣れてきてうまくできました。ランチタイムにはバ

スケをし、とても楽しいひと時を過ごしました。」

「ニューランズカレッジの生徒は、先生から与えられた課

題や自分が興味を持った課題を、自分のペースで進めていました。ノートパソコンやスマートフォンを自由に使い、友達と話しなが



Newlands College 授業の一コマ

課題を果たしていました。

ニュージーランドの学校の特徴は、各生徒の個性や才能を尊重し、個人別指導を徹底する教育方針が取り入れられていることだと思います。ニュージーランドで、生徒たちが多様な科目の中から自由に選択して授業を受ける様子や、自分が進みたい道に沿った科目を選んで、飛び級などの制度を使ってどんどん極めていく姿を見てうらやましく思いました。」

■ニュージーランド社会に触れる



ハチの巣 (Beehive) と呼ばれるニュージーランド国会議事堂前で

「ガイドさんに説明していただいたワイタング条約とそれに関係する歴史に僕はとても興味を持ち、家に帰ってより深く調べるきっかけにもなりました。」

「(乗馬学校で) 私が乗った馬は、最初はぎげんが悪いように見えて、怖くて泣きそうでした。でも、なでてみると、ちょっとうれしそうにし、その後だんだん慣れたのか、私の言うことをきいてくれるようになりました。蹄鉄をデコレーションした時は、見守ってくれた方とコミュニケーションをとろうと思い、自分なりにがんばったところ、あなた英語上手だね、と言われ、とてもうれしかったです。もっと英語をがんばります。」

「よくみるとアジア系の人、マオリ系の人、ヨーロッパ系の人など本当に様々な人がいて多文化な国だと



自然環境保護区 Staglands にて

思いました。ニュージーランド人には、相手の意見をしっかり聞く人や、人種や性別、上下関係を気にしない人が多いと感じました。」



全員が乗馬を体験

「ニュージーランドへ行く前に、僕はニュージーランドのお菓子は、テレビに出ているようなすごく大きいコーラとかポテトチップスなどだけだと思っていました。しかし、日本との違いはあまりありませんでした。確かに、大きな食べ物はあったけれど、そんなにありえないようなことはありませんでした。日本は島国なので、外国とは離れた文化ができてきました。外国の人が日本を珍しいと思うように、外国に行ったことのない僕はお菓子という分野でもそれを実感しました。「違う」や「異なる」ではなく、同じ立場で「珍しい」のだと思いました。」

■支えてくれた「家族」、新しい「私」

「ホストマザーは毎日たくさんのおかずを作ってくれましたが、私は夕方からお腹がいたくなり、ちょっとずつしか食べることができませんでした。でも、ひ



ホストファミリーと

きこもってばかりではダメだと思うので、よく寝て体調をしっかり整えて、ホームステイをエンジョイしよう決めました。日本を思い出して泣いてもすぐに会えるわけではないので、貴重な時間を有効に使おうと思います。今いる場所はニュージーランドで、あと2週間は家族に会えません。でもこの2週間、私はもう一つの家族とたくさんたくさん思い出をつくります。」

「帰国の日。もう寂しさはありませんでした。それよりニュージーランドで出会った人への感謝の気持ちでいっぱいでした。」

「車で空港に向かいました。空にはジェイソンが好きな雲がきれいに浮かんでいました。荷物チェックを済ませてからホストファミリーと最後の時間を過ごしました。ジェイソンをトランクにつめて日本に帰らなかったです。(略) 中野では僕たちの帰りをまちどおしくしている親や兄弟が集まっていた。その日の夜は、ニュージーランドであった色々な話やおみやげを渡して時間をすっかり忘れました。ポケットに入れたままだったカードキーも含めてたくさんの思い出を日本に持ち帰りました。」

第21回中野区・西城区友好親善少年軟式野球大会

1986年、中野区は、北京市西城区と友好区関係を締結し、以来、経済・科学技術・文化・教育・まちづくりなどさまざまな分野での交流を行ってきました。文化やスポーツを通じた交流は、子どもたちに身近な隣人と触れ合う絶好の機会を与えます。ANICは、中野区軟式野球連盟、中野区少年野球連盟とともに実行委員会をつくり、区内の少年野球チームに所属する6年生からなる「オール中野」を結成し、西城区へ派遣しています。今年度は、8月に10名の選手を派遣しました。

■不安から楽しみへ

今回、中国に派遣された選手は、それぞれのチームでの野球練習はもちろんのこと、代表団として、簡単な中国語、中国事情を学び、結団式でそれぞれの意気込みを語り、中国へ飛び立ちました。「初めての外国ということで楽しみと不安がありました。着いてみたら広くて空気もきれいで、不安はなくなり楽しみな気持ちが大きくなりました。」

■行ってみて初めてわかること

「中国は、日本とちがうところがたくさんありました。例えば、お金や言葉や食べ物などです。」



天安門広場にて

「特にちがったのが料理です。」「一番苦労したのが、

八角が入っている料理です。独特の味で、みな八角が入っているかどうかは、分かるようになっていました。」

「天安門広場には40万人入ることができますと案内してくれた王さんが言っていました。中野区の人口は約32万人なので、天安門広場に余裕をもって入ることができます」

■よく見てみよう！

「もう一つ違うところは、バイクです。最初見た時は、日本と同じに見えましたが、6日間中国にいるとながちがうかははっきりわかりました。それは、バイクのエンジンが電気だということです。北京市では車のエンジンなど二酸化炭素を出すものがいっぱいあるので、バイクだけでも電気のエンジンにすれば少しは二酸化炭素が減るからだそうです。」

「野球の道具は日本製で、日本と変わりませんでした。」

■大きな舞台が成長を促す

「西城区の区長さん達にあいさつに行きました。その時、自分の名前を中国語で言いました。うまく言えてよかったです。」



中国語でご挨拶

「ぼくたちは、中国の地で中国のチームと交流試合をしてとても貴重な体験ができたと思いました。」

■楽しかった中国の人々との交流

「中国は怖い人ばかりいる場所だと思ったら優しい人がたくさんいました。楽しかったのでまた来たいです。」



お土産の団扇にお互いの名前を書いて

「日本人と中国人で言葉の通じない国でも、交流会では、中国の言葉がしゃべれるかのように楽しく交流できました。」

「中国の子どもたちは、とても優しく、楽しかったです。第3試合は(略)負けてしまったけれど、子どもたちと仲を深めることができました。夜は、中国の子どもたちとごはんを食べて、ぼくたちも中国の子どもたちも、歌を歌い、とても盛り上がりました。」

「他国との交流は、初めての経験でした。やはり他国の人も良い人がいるのに、何かのえらい人が悪くてその国の人には悪い人と思うのはただの思いこみで、その思い込みをやめようと、ぼくは、思いました。」

■仲間に、家族に感謝

「ぼくは第1試合の先発でしたが、ひじがちょっと痛くて全然ストライクが入らなくてみんなに迷惑をかけてしまいました。でもみんながちゃんと打ってくれたので本当に感謝です。」

「この機会に送り出してくれた家族にも感謝したいです。」

8月14日、15日の2日間、交流試合を3試合行い、オール中野は2勝1敗で勝ち越しました。

(結果は以下のとおり)

	オール中野	vs	西単小
第1試合	16	-	8
第2試合	12	-	4
第3試合	0	-	4



北京市 育才学校野球場にて

イベント / レポート

夕涼み会

7月14日(木)、恒例の「夕涼み会」をなかのZERO西館で行いました。激しい雷雨のなか、濡れながらも足を運んでくださった90名を超える来場者の方でにぎわいました。

たくさんの方が浴衣を着て、ホスピタリティーツーリズム専門学校の学生が担当する「かき氷」や「型抜き」「とんとん相撲」「だるま落とし」、また、東亜学園の生徒がお手伝いして下さった「ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」などを楽しみました。

江戸囃子「粋だ音え連」による、伝統を踏まえながらオリジナリティあふれるお囃子、躍動感ある獅子舞には多くの方が見入り、演奏後には実際に体験をする時間が設けられました。

会場のあちこちで、参加者、ボランティアの方が談話する輪が見受けられ、日本の祭りは交流の場であることもあらためて感じられました。



そろって浴衣に身を包む留学生たち

外国人おもてなし
語学ボランティア育成講座

2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、地域をあげてのおもてなしを担う「外国人おもてなし語学ボランティア」を育成する講座を、9月7日(水)、なかのZEROで行いました。「おもてなし」の心構えから、具体的な場面を想定しての実践的な英語表現、外国人観光客とコミュニケーションをとる上での注意点や役立つ情報などを講師から学び、2人組でロールプレイングを行いました。修了者には、「おもてなし語学ボランティア修了証」とバッジが渡されました。

「おもてなし」が、修了者のみならず、多くの方が日常的に行う広範な活動となることを願います。



2回目となる「おもてなし語学ボランティア」も盛況裡に終了

夏休み子ども日本語クラス閉講式
やったね!の会

8月19日(金)は「夏休み子ども日本語クラス」の最終日でした。

大勢のお客様をお迎えて、夏休みの勉強の成果を日本語のスピーチという形で発表しました。来日間もない子どもたちは、簡単な自己紹介と好きな食べ物について、日本語で作文を書くことに挑戦した子どもたちは、将来の夢や学校生活の思い出、家族のこと、日本で気づいたことなどについて、ひとりひとり、がんばってしっかりと表現しました。

41人の子どもたちが日本語を学習し、50人に上る日本語ボランティアの方が日本語指導をしてくださいました。連日猛暑が続く中、みんながんばりました。ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。



元気に「やったね!」

日本の夏祭りを堪能
松が丘片山町会盆踊り

8月6日(土)、金曜ボランティアメンバーは、松が丘片山町会が主催する盆踊り大会にお招きいただき、中野区新井にあるTCC日本語学校の留学生とともに、松が丘北野神社に足を運びました。浴衣を着た留学生の皆さんは盆踊りの輪に積極的に入り、踊り方を教えてもらい、また屋台を楽しむなど、日本の夏祭りを堪能しました。町内会の方々とも交流し、連絡先を交換した人もいたそうです。地域で知り合いの方が増えることは、留学生にとっても心強いことでしょう。これからも地域の方と外国の方が交流できる場を設けていきたいと思えます。



TCC日本語学校の留学生と金曜ボランティアメンバー

外国語が母語の親子のための高校進学説明会

9月24日(土)、なかのZERO西館で中野区国際交流協会とNPO法人多文化子ども自立支援センターの共催で開催し、ANICで日本語を学ぶ中学生や近隣の中学校に通う子どもたちとその保護者及び日本語ボランティアの方など約40人が参加しました。東京都の都立高校の入試制度を中心に「在京外国人特別枠」や辞書持ち込みなどの特別措置について、「やさしいにほんご」で説明し、それを通訳ボランティアが通訳しました。またANICの「子ども日本語クラス」出身で、現在は大学生の先輩から勉強の心構えなどの話がありました。子どもたちは真剣な眼差しで先輩の話に耳を傾けていました。



中国、フィリピン、タイ、ネパールの親子が参加

お知らせ

問合せ

中野区国際交流協会 (ANIC)

TEL : 03-5342-9169 E-mail : anic@nifty.com

タイ料理講習会

タイ出身の方から、グリーンカレー、スイーツなどの作り方を日本語で教わります。

日時 / 11月18日 (金) 10:00 ~ 14:00

会場 / 障害者福祉会館 (沼袋2-40-18)

参加費 / 1,000円 (材料費)

申込 / 11月2日 (水) ~ 11月7日 (月) までに電話またはメールで、住所、氏名、電話番号を協会までご連絡ください。(応募者多数の場合は抽選)



インターナショナルウィーク

ANICの活動紹介、中野に住む外国の方々に着目したコーナーを設けるほか、世界の国々のお菓子を販売します。



期間 / 2016年11月29日 (火) ~ 12月2日 (金)

場所 / 中野区役所1階ロビー、正面玄関前

パネル展示 / 12月9日 (金) ~ 中野駅ガード下

総合防災訓練

11月13日 (日)

第1部 : 午前9時 ~ 10時 (自宅付近で)

第2部 : 午前10時15分 ~ 12時

(桃花小学校 中央5-43-1)



第2部では、消火器的当てや簡易担架搬送などの訓練を、スタンプラリー形式で体験することができます。

す。(雨の場合は、内容を変更して実施する予定。)

ANICは、多言語情報センターを開設し、通訳・翻訳ボランティアの協力を得て、外国の方々のサポートや情報提供を行います。

ANICホームページに防災情報を掲載しました

ホームページに、新たに「防災情報」のバナーを設けました。地震発生時に注意すること、地震の前に準備しておくもの、職場や外出先で地震に遭った場合の行動の仕方などを学ぶことができる動画 (東京都国際交流委員会ホームページにリンク)、中野区の防災地図などを見ることができます。ぜひご覧ください。

「やさしいにほんご」で行こう！ おけいこ その5 ~はじめまして！ 日常会話①~

田中さんは家の近くで、いつも外国人らしい人を見かけます。今日も散歩の途中で会ったので、話しかけてみることにしました…。

田中：こんにちは。はじめまして。田中です。
 コウ：はじめまして。コウです。
 田中：コウさんのご出身はどちらですか。
 コウ：韓国です。
 田中：いつ日本にいらっしゃいましたか。
 コウ：去年の8月です。
 田中：何かわからないことがあったら、教えてください。
 コウ：よろしくお願いします。

田中：こんにちは。はじめまして。田中です。
 コウ：はじめまして。コウです。
 田中：コウさんの国はどこですか。
 コウ：韓国です。
 田中：いつ日本に来ましたか。
 コウ：去年の8月です。
 田中：何かわからないことがあったら、教えてください。
 コウ：よろしくお願いします。

相手の日本語レベルによっては、あまり丁寧すぎると通じません。相手の様子を見ながら、話しましょう。日本語上級者に対しては、標準的な日本語で話し、コミュニケーションの幅を広げることも考えられます。

出典：栃木県・公益財団法人栃木県国際交流協会『まずは、「やさしい日本語」で話してみよう！』

編集後記

一人の人が、同じことを体験したとして、10代の時に感じるのと60代になって感じることは異なるでしょう。その時でなければ感じられないこと、考えられないことを大切にしたいと思います。(M)



▼ HP



▼ facebook

